

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が我々の働き方に与えた影響とは？

経済学研究科 経済学専攻

教授 佐々木 勝

Researchmap https://researchmap.jp/masaru_sasaki



研究の概要

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が第5類感染症に移行してから約3年が経過しました。感染症の脅威が人々の記憶から薄れる中でも、本パンデミックがもたらした影響を振り返り、今から次回のパンデミックに備えることが重要です。本研究では、COVID-19が日本の労働市場における雇用ミスマッチを悪化させた影響を分析しました。感染リスクは職業や雇用形態によって異なり、特に人と接触する機会の多い職業ではリスクが高まります。そこで、当研究では感染リスクによる職業別・雇用形態別の求職・求人動向を調査し、職業別のミスマッチ指数を推計しました。

研究の背景と結果

COVID-19による労働市場への影響は、産業、職業、労働者属性によって異なり、対面での業務の頻度やリモートワークの可能性が大きな要因となります。感染リスクが高い職業では求人が減少し、求職者が他の職業に移動しない場合、労働需給のバランスが崩れ、雇用ミスマッチが発生する可能性が高まります。日本ではパンデミック以前から労働市場のミスマッチが確認されており、COVID-19によってさらに悪化したことが示唆されています。

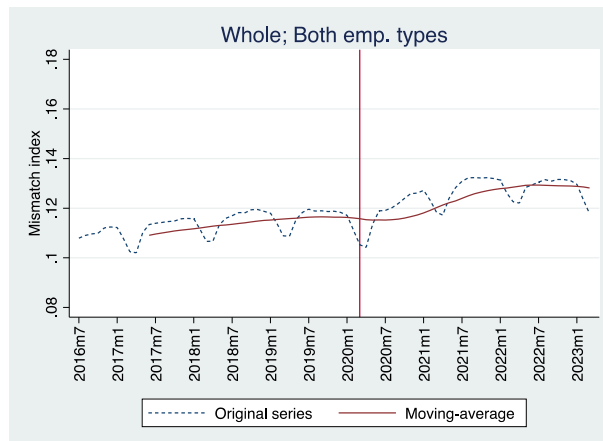
本研究では、公共職業紹介所（ハローワーク）の行政データと日本版O-NET(job tag) データを接合し、感染リスクやリモートワークの可否に基づく職業ごとの差異を分析しました。また、フルタイム労働者とパートタイム労働者の雇用形態を考慮し、それぞれのミスマッチの進行状況を検証しました。

主な結果は以下の通りです。第一に、2020年3月に政府が学校閉鎖を要請して以降、労働市場の逼迫度（有効求人倍率の近似値）および就職率（求職者1人当たりの就職件数）が減少しました。労働市場逼迫度は2021年初頭に回復の兆しを見せましたが、就職率は低いまま回復せず、継続的にミスマッチが存在していたことが示唆されます。第二に、2020年3月以降、感染リスクの高い職業やリモートワークが困難な職業のフルタイム労働者でミスマッチが急増したほか、リモートワークが容易な職業に従事するパートタイム労働者でも顕著なミスマッチが確認されました。これらのミスマッチはデータの最終年月である2023年3月時点においてもパンデミック前の水準に回復せず、持続的に悪化していることが判明しました。本研究はこれらの分析を通じ、COVID-19が職業別・雇用形態別に及ぼした影響を包括的に明らかにしました。

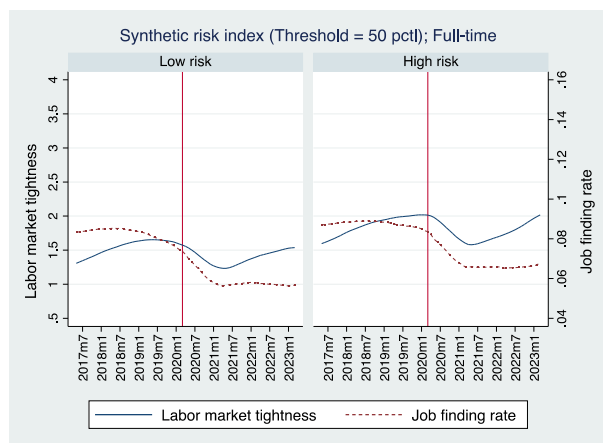
継続的なミスマッチが存在する要因の一つとして、職業間の労働移動が容易でないことが挙げられます。感染症拡大などの負のショックにより求人数が減少した場合でも、求職者が教育や訓練を通じて新たなスキルを習得し、別の職業に就けるような流動性の高い労働市場の整備が必要とされます。

研究の意義と将来展望

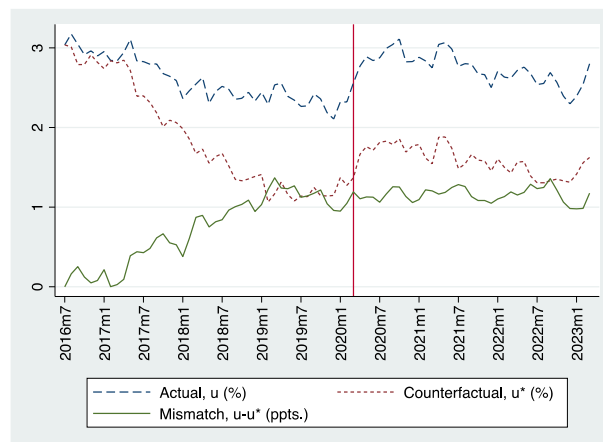
本研究の意義は、COVID-19が日本の労働市場に与えた影響を職業別、雇用形態別に定量的に分析し、感染リスクやリモートワークの可能性による差異がミスマッチを悪化させたことを示した点です。また、パンデミック期間中に政府が実施した雇用調整助成金がミスマッチに与えた影響について、改善または悪化の可能性を示唆し、将来の研究課題として残されています。次回のパンデミックに備えるため、労働市場の動向を客観的に把握し、政策立案に役立つ知見を提供する研究をさらに進めていく予定です。



主要図表1 : Figure 4 (a) 雇用ミスマッチの推移¹⁾



主要図表2 : Figure 2 (a) 労働市場逼迫率と就職確率の推移¹⁾



補足図表 : Figure 4 (b) 雇用ミスマッチによる失業の推移¹⁾

ソーシャルイノベーション

特許
論文
参考URL
キーワード

1) Higashi, Yudai; Sasaki, Masaru. Did COVID-19 deteriorate mismatch in the Japanese labor market? Japan and the World Economy. 2025. 76, 101331. doi: 10.1016/j.japwor.2025.101331